

凸凹の共有



自分の長所や得意なことで誰かの苦手をカバーして、自分の短所や苦手なことも受け止めてくれる誰かがいる。そんな組織を目指していますし、スタッフも実感しながら仕事をしています。みんなの凸凹がうまく組み合って、まあいい組織になっています。

対話



『対話』を大切にしています。それぞれの考えを出しあうことで、時には笑い声あふれる中で語り合います。それぞれの考えがあるからこそ自分にはない視点に気づき、お互いの学びになります。そこから、もっと面白いアイデアがうまれていきます。

縦割り保育



年齢の違う子供たちが一緒に過ごす中で、できることの違いに気づき、それを自然に受け入れて手をさしのべる姿があります。違うことが当たり前の中で、子どもたちは多様性と思いやりと優しさが育まれます。

いきもの



園庭ではいろいろな植物や生き物と出会います。その存在に興味をもち、思わずさわってみたくもなります。畑やプランターでは、子どもたちが育てる野菜を決め、収穫・食べるまでを楽しみながら体験しています。

それぞれの良さを活かす

やってみたいに寄り添うために

めぐみの保育者として

対話でつむぐチーム保育

一緒にいたいと思われる人に

小さな先生がいてくれる安心感

やりたいことがそこそこにある庭

めぐみの保育について

季節を感じながら過ごす中で

表現するって子どもの存在そのものの

保育の中心は遊びです。子どもたちの「やってみたい」だけでは成長に必要な経験を保障することはできません。私たちは子どもの主体性を尊重しつつ子どもの今を見つめ、発達を見通しながら遊びの環境を作っています。

大人が言われて嬉しいことばは、子どもも言われて嬉しいですし、大人に言わないことばは子どもにも言いません。そんな当たり前だけど大事なことを、すこし意識しながら、子どもにも大人にも「この人ともっと一緒にいたいな」と思われる人になりたいと思っています。

室内では体験できない遊びが庭にはあります。季節により自然や生活に変化があることに気づきながら、様々な環境に好奇心や探求心を持って遊びを広げていく子どもたち。私たち保育者は子どもたちが外で遊ぶために必要な『時間・空間・仲間』を大切にしています。

描いたり作ったり、歌ったり踊ったり、演じたり石を並べることすら。表現の仕方はさまざまですが、評価されず、しっかり受け入れられることがもっと表現したくなります。まずは、安心して表現できる環境づくりをしながら、子どもも大人も楽しく表現しています。



専門性



在り方



外で遊ぶ



表現する